

題「日の丸・君が代」

平成15年6月

青年塾七期生 関西クラス 香川 湧慈

国旗が掲揚され、国歌が演奏される。そんな時、自然と起立して姿勢を正し敬意を表します。もちろん、外国の国旗・国歌にも同じように敬意を表すのが普通です。

なのに、近年では国旗掲揚・国歌斉唱に反対する人達があります。おそらく、戦後の占領政策の影響であろうと思う。国旗イコール軍国、君が代イコール戦争を起こした天皇の歌。という認識があるのであろうと思う。学校で日の丸・君が代について特に教えられるということもない今日ですが、自分の国の象徴である国旗や国歌は小学生から文献に則って教えてほしいと切に思います。

私は人間が充実して生きるのに最も大事なことは、反省と感謝そして誇りだと常々感じています。その誇りを持って生きるためにも、バネというか無意識レベルの心の奥底に響くものに自国の国旗・国歌というものがあり、その成り立ちを自覚していることが大切なのではないかと思うのです。

教育基本法第1条は教育の目的に「人格の完成」を挙げていますが、その中には当然、「国家や民族の意義と価値の認識」や「民族とその文化に対する理解と愛」などが含まれると思うのです。その意味で、国旗・国歌の成り立ちや意味を教え、国旗を掲揚し、国歌を斉唱することなどにより国家・社会など集団への所属感や国民の理想や願いを深めることは、学校教育の欠く事の出来ない大切な役割と思うのです。

自国の国旗・国歌に対して敬意を表することは国民としての最低限の道徳と思うのです。こうした最低限の道徳、常識を持たなければ、自分の国の国旗・国歌に敬意を払えない人が他国の国旗・国歌に対して敬意を払える筈がないと思うのです。

国際社会でもし、外国の国旗・国歌に敬意を表さなかったら、相手の国民に対して一種の侮辱と受け止められのが常識だと思うのです。

以前読んだものの中に、サッカーのラモス瑠偉選手の日の丸についてのコメントが載っていましたが、なるほど！と感じました。

「日の丸が目に入ると、こんなところで諦めていいのかって、また闘志が湧いてくるんだ。」って彼は言ってますが、自分は国の代表なんだ。だから自分の都合だけで諦めちゃいけないんだ。皆んなのために頑張らないと。と、自然と自覚出来るのだらうと思います。

確か私の記憶が正しければ、アトランタオリンピックの女子マラソンで、有森裕子選手が銅メダルを獲得した時の有名になった言葉に「自分を褒めてやりたい」と言っていました。私はあのコメントを聞いて情けなく感じたのを覚えています。

いみじくも、銀メダルを獲得したエゴロワ選手は「家族のために頑張りました」と言い、金メダルを獲得したロバ選手は「国のために頑張りました」と言ったのを覚えています。天の神様が応援するのだったら、自分のために頑張った人より、家族のために頑張った人。それより国民皆んなのために頑張る人に勝利を与えたのかなぁと思えるのです。

日の丸の成り立ちや君が代の意味を確認することが、我々国民には大事で、大切なことと思うのです。

国旗・国歌にはその国の歴史、伝統、宗教、文化の中から生まれたものであり、さらには建国の理想や国民全体に共通する願いなどが込められているのだから、それを一人一人が認識することは志高く生きてゆく上に必要なものと思うのです。

君が代の「君」は天皇を指し、天皇の御代の栄えを寿ぐ歌であり、一千年も昔より歌われ続けているということは、同時に民衆の歌でもあったということだと思います。

世界の国々で一般に見られる君主と民衆の対立の歴史を考えれば、稀有な例と思います。ここに天皇と国民が対立関係にあるのではなく、一体的であった我が国独自の国柄を見ることが出来ます。

日本人にことさら国旗掲揚・国歌斉唱を義務付けることはないと思うが、余りにも成り立ちや意味合いを教えられていない為、敬意を表し姿勢を正すことが出来ないのは恥ずかしく情けないことと思います。

世界の国々の国旗・国歌の意味や内容を自分で調べることを教えることが、自覚を促すものと思います。

## 自由課題図書感想

「原因」と「結果」の法則 ジェームズ・アレン著

関西クラス 香川湧慈

私は、20年前22歳の時にナポレオン・ヒルの成功哲学に魅せられて、実生活に取り組んで来ました。

その時から、ジェームズ・アレンの金言「人は、自分が考えた通りの人間に成る。」という言葉信じて歩んでいます。ジェームズ・アレンの本は今回初めて読みました。

冒頭に、「この宇宙を動かしているのは、混乱ではなく秩序です。」という言葉には改めて発見がありました。「なるほど！そうだよなあ。」秩序が宇宙を動かしているという表現は、すべてのものに「秩序」があるんだと認識しました。

おそらく、自然のすべてのものは秩序正しく動いているのに宇宙で人間だけが「秩序」を乱しているんだろうと感じざるを得ません。

私は常々、起こる現象の全ては自分が蒔いた種の結果だと思って今日に至っています。

自分は生まれて此の方、こんな結果を招くような原因を作った覚えは無いと思っても、前世でその種を蒔いてたと考えれば他人の所為には出来ないし、反省しかありません。

又、この本の中で当たり前の事なのですが、衝撃を受けた項目は、人間はもし成功を目指すならば、自分の欲望のかなりの部分を犠牲にしなくてはならない。

あらゆる身勝手な欲望を放棄している時、人間は真に自由な状態にある。

自分の欲望を優先させる人間は、明晰な思いも巡らせず、秩序立った計画も立てられません。自分の真の能力を発見することも開発することも出来ず、何を試みても失敗する。

犠牲を払うことなくしては、いかなる進歩も成功も望めません。

私達の成功は、その達成をどれだけ強く決意し、その計画の上に「いかに強く固定するか」に加えて、自分の欲望をどれだけ犠牲に出来るかにかかっています。

いやあ、この言葉は「ズシン！」と来ました。自分は今まで、「欲望を犠牲にして来たか！」

「秩序立った計画を立てて来たか！」「その計画の上に強く気持ちを固定して来たか！」

唯々、反省です。「成功哲学」に出会って20年、自分は何をやって来たのか。

この三点の徹底が出来ていない。だから、この体たらくなんだと感じました。

何が起ころうとも、目の前の事象を一喜一憂せず、淡々とこなしているし、

心はいつも理想に燃え、ベストコンディションで歩んでいることは事実なのに、

この三点が出来ているかと自問自答した時、出来てないんだよなあ。

この本は最後に「穏やかな心」という章で締め括っています。思いと人格、そして人生との関係を理解し、原因と結果の観点から、あらゆる現象をより正しく眺められるようになることで、より穏やかな心の状態を保てるようになる。

心の中の風や嵐を見事に従えて生きているのは、自分の思いの浄化とコントロールを成し遂げている、ほんの少しの、真に賢い人たちだけなのだろうと。

## 課題図書

神道と日本人 葉室 頼昭著

関西クラス 香川 湧慈

この本は、発刊された時期に読みました。率直な感想は、この本を中学生の教科書にしてほしいと感じたことを覚えています。私の思想の根底は神道ですから、葉室宮司の仰られていることは全くの同感です。

私が一番素晴らしいと思ったのは、何とも分かり易い表現で書かれていることです。

著者である葉室宮司に尊敬の念を感じたのを覚えています。

人間の成り立ち、何故人間は生きなければならないのか。ということも中学生にでも理解出来る表現をして解説されている。このようなことを世の中の「親」と呼ばれる存在の人たちが子供たちに語り続けていくことが、人間らしい生き方のキッカケを創ることになるだろうし、人間らしい世の中を創っていくのだろうと感じてなりません。

本の中で、京都で大文字焼きがあり、その中に「妙」という字があり、それは「少女」を意味すると。子供でもなく、大人の女でもない。その中間で少女だと。

今の日本には小さい時からこましゃくれた子供ばかりで「少女」がいない。NHKのテレビでモンゴルの番組を見ていて、そこで生きている子供たちが実に素晴らしいと感じたのです。眼が輝いている。海を見た事が無いということで、映画で海を見させていましたが、皆びっくりしたような無邪気な顔をして海を見ている。

神様が現れるというのは、本当にこういう顔だと思いました。本当に「我欲」が無いというのは、もうそういうところでしか見られないんです。と。なるほど、私もそう思います。「我欲」がある為に病気や悲しみが出て来る。

「我欲」を祓いなさいというのが「祓い」ということ。

だから、神社に行くと不思議と「有り難い」という感覚になるんだろうと思います。

「何者がおわしますかは知らねども、唯、かたじけなさに涙こぼる。」と古の武士が言ったそうだが、まさにそんな感じを受けます。

理屈を超えたところに感謝の念が湧き出て来ます。私は、人間がすることで最も大切な事は「捨てる事」だと思います。何を。それは「我欲」を捨てる事。

永遠の人間のテーマだと思う。日本は地形学的に考えても、他の人と共存共栄をしなければ生活出来なかった民俗と思うのです。そして限られた資源の中から創意工夫し続けて生活の知恵を見出して来た民族であろうと思います。

今こそ、人口の爆発的增加で地球の土地面積が狭まっている状態だからこそ、日本は世界のお手本になる役割があると思います。

神道の心を日本人みんなが学びながら、世界に発信して行く事こそ、世界に於ける日本人の役割ではないでしょうか。

葉室宮司の実際のお話を聴きたいと願ってます。